

平成２７年度 茅ヶ崎市市民討議会報告書

テーマ：「地域コミュニティのさらなる活性化のために」

茅ヶ崎市「市民討議会」実行委員会

目次

実行委員長あいさつ	1
1 市民討議会の実施概要	
(1) 日程等	2
(2) 討議テーマと情報提供	2
(3) スケジュール	2
2 市民討議会の討議のヒント	
(1) 討議 1	3
(2) 討議 2／3	4
3 市民討議会の提言のまとめ	
(1) 討議 1	5
(2) 討議 2	10
(3) 討議 3	13
(4) 学生の感想と意見	18
4 アンケートの結果	
(1) 事前アンケート	22
(2) 事後アンケート	25
(3) 不参加者アンケート	29
5 市民自治推進課より	30
6 講評	32
7 茅ヶ崎市「市民討議会」実行委員会の動き	34
あとがき	35

実行委員長あいさつ

市民のまちづくりにたいする意見を、多様な方法で集めようとしている茅ヶ崎市は、「市民討議会」の取り組みを続けてきました。本報告書は、その直近の「実践」をまとめたものです。今回も、同市のイニシアティブにもとづき、茅ヶ崎青年会議所、文教大学が3者協働による開催スタイルを採用して、この討議会を実施しました。

市民討議会は、参加者予定者を抽選によって定め、その方々に招待状を送って出席者を募ることにしています。そして、出席を了承して下さった方を、さらに抽選で36名まで絞り込みます。このような手順を経て討議にご協力いただく、このプロセスが従来までの市民参加の手法とは異なる部分であり、特徴の1つとなっています。

また、討議とは、あらかじめ実行委員会によって定められたテーマについて、ルールにもとづいて進められる話し合いです。参加者の中には、こうした仕組みに最初は戸惑う方もいらっしゃるかもしれません。しかし、最後には、同席した5人前後の「市民仲間」との対話が興味深いものだったと感じて下さっています。こうした実感とともに、話し合いを通じて達成される意見の表明と調整、加えて、学びあいや相互理解といった各種効果が期待できること、これも市民討議会の特徴と言えるでしょう。

さらに、討議会は話し合いのテーマが定められているため、当日、参加者には討議内容にかんする事前の説明も提供されます。その後、当該の課題について少人数で話し合い、そのグループの提示案を考えます。これにより、「私」個人の思いを、「私たち」の意見へと練り上げることに繋がります。また、初対面の人どうしが話をするので、新しい発見もあり、はたまた、既知の考え方が複数名に賛同されることもあり、多様な展開が生起します。こうして、質問や回答が一方通行にならず、話し合いという複数回の意見のやりとりが行われます。ゆえに、アンケートや市民コメントの募集とは異なるアイデア、考え方、解決案などを得る可能性が高まると考えられています。

上述の通り、市民討議会は、多様な市民意見の収集につながる、この手法固有の特徴があります。しかし、当実行委員会としても、これが目的達成のための絶対的な手段だと考えているわけではありません。市民意見に多様性を想定するならば、意見収集の方法にも多様性が必要であると思います。つまり、市民アンケート等の既存手法を継続的に活用し、そこに市民討議会も加えて多様性を確保し、さらには、これから生み出されるはずの新機軸にも期待しながら、「市民」の「意見」とはどのようなものかを考え続ける必要性です。当実行委員会が、このような重要な作業の一部に携わることができているのは、望外の喜びです。茅ヶ崎市のまちづくり過程に、わずかでもお役に立つことができるよう、これからも努力・研鑽を積み重ねたいと思います。

末筆ながら、討議会に参加して下さったみなさまをはじめ、多くの関係者のご支援・ご協力に、心より感謝を申し上げます。そして、これからも、茅ヶ崎市市民討議会を見守り、育てて下さいますよう、お願い申し上げます。

平成27年度 茅ヶ崎市「市民討議会」実行委員会委員長
山田 修嗣（文教大学 国際学部）

1 市民討議会の実施概要

(1) 日程等

- ア 日 時 平成27年12月6日(日) 10時00分～17時00分
イ 会 場 茅ヶ崎地区コミュニティセンター
ウ 参加者 名
エ 主 催 茅ヶ崎市「市民討議会」実行委員会
(文教大学湘南総合研究所及び公益社団法人茅ヶ崎青年会議所で構成)

(2) 討議テーマと情報提供

- ア 全体テーマ
「地域コミュニティのさらなる活性化のために」
イ 個別テーマ
討議1「地域活動にどの程度関わっていますか。」
討議2「あなたが「地域での活動を呼びかける」立場だとしたら、地域の人たちにどのように参加をよびかけますか？」
討議3「まちちから協議会で、みんなでどのようなことを達成してみたいですか？」
ウ 情報提供
討議1 「地域活動にどの程度関わっていますか。」
(情報提供1回目：山梨学院大学 副学長 日高昭夫氏)
討議2 「あなたが「地域での活動を呼びかける」立場だとしたら、地域の人たちにどのように参加をよびかけますか？」
(情報提供2回目：山梨学院大学 副学長 日高昭夫氏)
討議3 「まちちから協議会で、みんなでどのようなことを達成してみたいですか？」
(情報提供3回目：山梨学院大学 副学長 日高昭夫氏)
茅ヶ崎市総務部市民自治推進課 竹井良之氏

(3) スケジュール

10:00	開会、主催者挨拶	13:00	情報提供②
10:05	趣旨・進行の説明	13:20	グループ討議②
10:10	経緯の説明	14:20	【休憩】
10:20	アイスブレイク	14:30	グループ討議内容発表・投票
10:40	市長挨拶	14:55	情報提供③
10:45	情報提供①	15:20	グループ討議③
11:05	グループ討議①	16:15	【休憩】
11:55	【休憩】	16:25	グループ討議内容発表・投票
12:00	グループ討議内容発表	16:50	1日の振り返り
12:20	【昼食】	17:00	閉会

2 市民討議会の討議のヒント

(1) 討議1「地域活動にどの程度関わっていますか」

内容	討議のヒント・きっかけ
自己紹介	お名前、お住まいの地域など
アイスブレイク (情報提供を聞いて感じたこと)	心配になったこと 気を付けていること 楽観していること
みなさんの地域（や地域活動）への関わりはいかがですか	・ 私達の地域へのかかわりと聞いて、あなたが思い浮かべる活動や取り組み事例は何ですか（参加の有無は関係なくお話し下さい） ・ その活動（等）に参加していますか（参加したことがありますか） ・ なぜ、参加してみようと思ったのですか（参加し続けようと思ったのですか） ・ （思い浮かばない人にたいしては）他の人の例を聞いて、なぜそれへの参加が難しい、または、参加しなくても良いと感じたのですか ・ （思い浮かばない人が多いときは）地域活動に関わることでできない事情や率直な気持ちを話してください
	わたしの地域に起こる変化は何か (例) ・ 病院、公園、商店はどうなるか ・ 自治会の活動やお祭りなどの地域活動はどうなるか ・ 地震や大雪などの災害時はどうなるか ・ 自宅やその周りの環境の管理はどうなるか ・ 行政サービスの変化（低下）、行政負担の増加などは心配ないか
地域住民が地域生活の向上のために活動する利点を、どのようにお考えですか	・ 地域活動が自分の生活にどのようなメリットをもたらすでしょうか（関心を持っている事例にもとづいて話して下さい） ・ 私が地域に関わるべきだという理由として、何か思い当たるものはありますか ・ 私たち1人1人が関わることで、地域はどのように活発になると思えますか

(2) 討議2「あなたが「地域での活動呼びかける」立場だとしたら地域の人たちにどのように参加を呼びかけますか？」

内容	討議のヒント・きっかけ
簡単な自己紹介	お名前、お住まいの地域など
地域活動に参加してもらうために、どのような配慮や工夫が必要だと思いますか	・あなたにとり、参加しやすい雰囲気とはどのようなものでしょうか ・あなたなら、どのような組織やメンバーであれば参加しやすいでしょうか ・あなたにとり、どのような形（かかわり方）ならば参加してみたいと思えますか
どんな人、どんな団体に、あなたの考えや活動をサポートして欲しいですか	あなたが考えている活動にたいして、協力してほしい人や団体はありあすか（具体的な活動をイメージしつつ、考えて下さって結構です）
あなたがリーダーになったと想定して、地域の人たちの参加を促すためにやってみたいこと、必要だと思うことは何でしょうか	・どのような利点や特典を提供するよう、考えてみることはできるでしょうか ・自分ならこんな仕掛けをするといった工夫はありますか ・参加の呼びかけをするときの、話し方、誘い方を教えて下さい ・情報発信をするときの手段や方法など、紹介して下さい

(3) 討議3「まちぢから協議会で、みんなでどのようなことを達成してみたいですか？」

内容	討議のヒント・きっかけ
自己紹介、まちぢから協議会のモデル地区の事例を聞いた感想	お名前、お住まいの地域、近くでの事例など
まちぢから協議会が自分の地域にできたとき、どのような課題を提案しますか	・あなたの地域に、課題すべき解決はありますか（たくさん出して下さい） ・なぜ、その課題はまちぢから協議会で議論すべきなのでしょう
まちぢから協議会のような地域活動を通じて、地域で私たち市民が協力すると、どのように「良いまち」ができると思いますか	・良いまちに近づけるため、どのような課題が、どのように改善されると感じられたでしょうか ・みなさんの考える良いまちにもとづけば、どのような茅ヶ崎市になるのが理想的でしょうか

3 市民討議会の提言のまとめ

(1) 討議 1

テーマ：地域活動にどの程度関わっていますか？

- ・皆さんの地域（や地域活動）への関わりはいかがですか？
- ・地域住民が地域生活の向上のために活動する利点を、どのようにお考えですか

グループ 1	グループ意見
地域への関わり方	・防災、祭り、ママ友(SNS)など ・今まで地域活動に参加したことがない ・自分が知らない内に関わっていて驚いた ・今まで地域活動に参加してこなかった分、今後は参加していきたい ・「楽しそう」と「参加しなければ」という2パターンがある
地域住民が地域生活の向上のために参加する利点	・世代を超えた交流により周囲の人々とのつながりを作ることで安心感がうまれる ・子供を通して親同士の交流がうまれる ・地域の問題を共有できる ・子ども中心の地域社会を作ることができる ・地域の誇りを発信できる ・良いサイクルがうまれる ・住んでいる所が住みやすくなる

グループ 2	グループ意見
地域への関わり方	・PTA 副会長、海辺のゴミ拾い、浜降祭、近所付き合いなど ・地域に関わっている意識はない ・新しく引っ越してきた人は参加しにくい ・仕事や家事により時間が確保できない ・子どもを通じて学校とのつながりがある
地域住民が地域生活の向上のために参加する利点	・地域住民それぞれの生きがいとなる ・楽しみながら行える

グループ 3	グループ意見
地域への関わり方	・自治会活動、PTA、子ども会、 ・関わっている意識はなかったが、実は活動に参加していた ・地域活動が何かがわからない ・できることから、できる範囲でやる ・見ているだけでいい ・近所付き合いがない ・仕事と子育てとの両立が厳しい

地域住民が地域生活の向上のために参加する利点	・ 地域を知ってもらえる ・ コミュニケーションを通じうまれるものがある ・ 様々な活動を通して人と触れ合える ・ PTA などは、子供を通して情報伝達が可能 ・ 便利になってきているため必要ない（メリットが感じられない）
------------------------	---

グループ 4	グループ意見
地域への関わり方	・ 自治体活動、消防団、子育てサークル、マンション管理など ・ 地域への関わり方がわからない ・ 知りたい地域の情報が特にない ・ 茅ヶ崎には住んでいるだけ ・ 仕事で忙しく関わる時間がない ・ 既にできている関係には入りづらい ・ 参加するが目的がわかっていない ・ 年をとるにつれて参加意欲がなくなってくる ・ 子育てが大変で時間の確保ができない ・ 茅ヶ崎の南北で分断されてしまっている ・ 活動できる場所がない
地域住民が地域生活の向上のために参加する利点	・ 交流の輪が広がり話せる人が増える ・ 防災の情報がわかりやすい ・ イベントの内容しだいで老若男女誰でも参加できる ・ 地域の問題を知ることができる

グループ 5	グループ意見
地域への関わり方	・ 子ども会、浜降祭、消防団、近所付き合いなど ・ 参加してみたいが、新しくしてみたいことはない ・ 市外で仕事をしていると関わるのが大変 ・ 参加してみると楽しいが、時間がない ・ 既に形成されたグループに入りづらい ・ 地域活動に関する活動が得づらい ・ 自治会は難しそうに感じる ・ 自治会の班長に選ばれるのが苦痛、やりたくない
地域住民が地域生活の向上のために参加する利点	・ ご近所付き合いがうまれる ・ 地域の人に子どもを見守ってもらえる安心感 ・ 周囲の区の住民との関わりが増える ・ 地域の安全性が高まる ・ 地域が住みやすくなる

グループ 6(学生：オブザーバ)	グループ意見
地域への関わり方	・募金活動、ローカルファースト、祭りなど ・大学生は学業やアルバイト等により自治会活動ができない ・時間に余裕ができたなら参加したい ・他人事と感じてしまう ・何もしていない ・住んでいるところの活動に興味がない ・そこに「住んでいるだけ」という意識の問題 ・新参加者が参加しにくい雰囲気 ・「地域のため」ではなく、「自分のため」に活動している
地域住民が地域生活の向上のために参加する利点	・地域に貢献できる ・地域の人と深い関わりがもてる ・地元へ愛着がもてるようになる ・地域のことを知ることができる

(2) 討議2

テーマ：あなたが「地域での活動を呼びかける」立場だとしたら、地域にどのように参加を呼びかけますか？

- ・地域活動に参加してもらうために、どのような配慮や工夫が必要だとおもいますか
- ・どんな人、どんな団体に、あなたの考えや活動をサポートして欲しいですか
- ・あなたがリーダーになったと想定して、地域の人たちの参加を促すためにやってみたいこと、必要だと思うことはでしょうか

グループ1	グループ意見
参加しやすい協議会とは	・グループがすでに出来上がっているため、参加しづらい。 ・地域にとって共通の話題なら参加しやすい（例：自分に関わりうるもの） ・活動内容が明白であること ・ハードルが低く参加しやすい
参加を促すためには	・インターネット、SNS をうまく利用する。（次の世代の参画を促すため） ・情報の告知の方法を世代によって使い分けする。（SNS と回覧板） ・声かけ Face to Face で話すこと ・きっかけづくり（市民に興味を持ってもらえるか自治体が考えることが大切では？）
課題	・世代によってニーズが様々 ・いろいろな年齢層に向けて広告を工夫する ・世代間で共通するものがなかなかない ・生活の中での声かけやきっかけづくり ・何が地域で興味をもってもらえるか探す必要がある

グループ2	グループ意見
参加を促すためには	・気軽さがあると参加しやすい。（集まってご飯を食べながら話ができる場所など） ・自治会で忘年会をする ・サークルと自治会のコラボなど ・回覧板とインターネットを使う ・知っている人がいると入りやすい
学生意見	・4年間だけの参加は入りづらい ・学生を必要としているのか？ ・地域の活動に学生が入っていいのか分からない
課題	・子供がいない世帯はあまり関わりがない。（コミュニケーションが大切） ・学生が入りやすい活動を考えていくべきでは。

	・地域イベントをやっているのか分からない ・年代別にほしい情報が違う ・集合住宅向けに情報伝達する方法を考えるべき
--	---

グループ 3	グループ意見
地域に対するニーズ	・自分のライフワークに組み込む価値があるのか ・住んでいる地域には寝に帰るだけ ・ニーズのあるターゲットから巻き込んでいく ・自分が求められていないと思いがち
参加を促すためには	・視覚的に興味を引き付ける、人の目につくような工夫をする ・参加することのメリットが必要 ⇒地域で使える通貨など作る ・地域の特色をうまく使う ・同年代のお茶会などからスタートする ・住民間のサポートも必要
課題	・情報が入ってこない（入りづらい） ・学校関連、子供関連の情報が多い ・回覧板に必要な情報がない ・興味を持てる情報を回覧板にのせてほしい ・情報に興味がない人はどうすればいいのか ・ネットの情報量は多いが活用しない

グループ 4	グループ意見
地域活動は必要か	・漠然と自治会は必要なイメージ ・自ら発信はできないが、必要性は感じる ・直接、出てくださいと声をかけられるのを待っている ・携わることで知らないことを知ることができたり、新しい学びがあったりした ・きっかけがないと行けない ・自由に意見を言える場が必要
参加しやすい組織とは	・外から来た人が垣根を感じないで発言できる ・できるだけ敷居を下げる ・来られるときに来られれば良いという雰囲気づくりがあるといい ・子供が大きくなってからも参加できるイベントがあれば参加しようと思う 回覧板などの紙面だけだと参加しづらい
参加を促すためには	・「呼びかけ隊」を作って声掛けをしあう ・SNS も活用して情報伝達する ・広報をもっと活用、大々的にアピールする

	・顔を見て直接話すことが大切なのではないか ・参加している人が紹介する ・自分の知り合いに伝言ゲーム的に声をかける
--	---

グループ 5	グループ意見
地域活動に参加しない・できない理由	・新参者は入りにくい ・何が行われているのか分からない ・情報量が少ないと入りづらい ・女性の集まりと思えて男性は入りにくい ・平日の昼間は仕事で参加できない
参加を促すためには	・防災+お祭りのようにイベントや活動を合わせて行う ・「してもらおう」、「してあげる」内容がうまく表現されていれば参加しやすい ・何のために行う活動なのか伝える ・他市/地域の成功例を参考にする ・オープンな雰囲気があると良い ・まずはお試しをして、達成感を味わってもらう ・いろんな方法でアプローチし、参加を促す ・興味を引くタイトルも重要
課題	・参加のメリット（楽しさ、達成感）をいかに伝えていくか ・子供がいない夫婦等にも届く告知の工夫 ・参加者が決まってしまっている ・企画する人をどう増やすか

グループ 6(学生：オブザーバ)	グループ意見
参加しやすい組織とは	・出入り自由なゆるい活動があると良い ・活動の役割は分担や順番制にして、みんなでやると決めておく（誰かに責任の押しつけがない） ・地域活動が活発になれば、地域のつながりができ安心安全になる
参加を促すためには	・インパクトのある広告を作る ・お店などにも協力してもらう（広告の設置） ・SNS などを使って活動の成果を見せる ・公共料金など必ず見る物と一緒にお知らせを同封する ・大人同士のコミュニティを作る（地域の忘年会、地域の同窓会） ・子供視点のイベントを行うことで親世代も参加する ・参加することのメリットを作る（景品をあげる）
課題	・周知不足 ・責任の押しつけがいやだ ・参加しやすさが必要

(3) 討議3

テーマ：まちぢから協議会で、みんなでどのようなことを達成してみたいですか？

- ・まちぢから協議会が自分の地域にできたとき、どのような課題を提案しますか
- ・まちぢから協議会のような地域活動を通じて、地域で私たち市民が協力すると、どのように「良いまち」ができると思いますか

グループ 1	グループ意見
地縁組織の運営について	・役を引き受ける人は大体決まってしまう ・世代交代やリーダーの交代の際はどうなるか等、それが負担に感じられる ・自分の地域の課題 ・親族が近くにいないので関わりにくい ・高齢で役をやれない ・負担を減らせれば人は増えるのだろうか？ ・若い人に声を掛けづらい ・上の代がどんどん辛くなってくる ・個人に余裕があるように活動すべき
まちぢから協議会ができることについて	・色んなものが色んな名前でありすぎて、正直わからない ・どういう役割なのか確立させるべき ・統合あつてこそ ・誰かが一人で孤立して、活動が止まってしまうことがないように、皆で協力すべき ・課題は役が重複することではないか ・複数の団体で連合を組んでも問題ない ・考えは良くても実行が難しく感じられ、別の負担がかかるのではないかという疑問も残る ・専門の人に話を聞いておくべき ・組織の切り替え運転にすぎない ・一年単位は短い（将来は合併するのだろうか？） ・地域活動の見直しをかけるのは大切 ・今のニーズに合わせて話し合うべき ・大きい組織と地域の間にワンクッション必要ではないか（自治会に限らずそれぞれの分野で） ・どの地域でもやる人はやる ・誰かが背負わなければならない ・組織の透明化が必要 ・何か必要性があるから出る、興味関心がなければ参加しない
地域との関係の希薄化	・関係が希薄 ・仕事の都合で地元のコミュニケーション不足

	・個々の力が弱い、代弁する人がいない、一人では言えない ・高年齢化、核家族の増加（取り残される） ・隣と会わなければ一ヶ月も会わない、回覧板もポストに入れるだけ ・挨拶のコミュニケーション、近所の会話の減少 ・ホームなどの受け入れ拒否 ・話を聞いてくれる人がほしい（近所でなく）
--	--

グループ 2	グループ意見
地域活動への参加、助かっていること	・回覧板で地域活動をなんとなくわかっているつもり ・赤い羽根や自治会費ぐらいで縁がない、どういうところで何をしているかわからない ・通学時間帯の見守り隊にお世話になっている、我が子のように毎日声かけしてくれて助かる、子どももその方を信頼、やっていただいてありがたい
地域課題	・円蔵などの古い地区は道が狭い ・中学・高校がそばにあり、車で出かけるのを控えている ・交通安全、とくに通学者との接触が心配 ・旭ヶ丘のラチエン通りはちょこちょこ色んな店があるので、人通りが多くヒヤットとすることが多いが、誰かがおいてくれた看板のおかげで以前とは違う気がするようになった ・自治会が高齢化しており、支えてもらってばかりという気持ちがある
お祭りへの参加	・お神輿 やる人はやる、知らない人は出ない ・子ども神輿も見かけないほど、参加者が減っている ・法被を着ていない人は引っ込みがち、どこで法被を着るかなどの連絡がこない
地域でのコミュニケーションについての課題	・南湖はお祭り好きで、かえってコミュニティに入れない ・雰囲気がお祭りと神社の維持管理が中心で、話に入っていけない（そういう自治会でなく、入りやすいテーマがあることが望ましい） ・コミュニケーションしたいと思わない人も多い ・価値観が違ふと共有するのが難しい ・コミュニケーションしたくない人にはしなくていいと思っている ・子どもの力、子どもによるつながりは意味が大きい
まちちから協議会への疑問	・似たようなことを住んでいる自治会でやっている ・まちちからと自治会の区別がどうなっているのか？ 必要あるのか？ ・まちちからが団体の悩みをまとめて解決するといっても、どこま

	で責任をもってやればいいのか ・それぞれの自治会と変わらない、仕事のみ増える ・実行力はあるのか？ 誰が責任を持って解決するのか？ ・自治会に入っていない人が、飛び越えて参加できるか？ ・新たな問題に対応するための団体なのか？ 話を聞くと、そういうわけでもなさそうだと感じる ・自治会が維持できなくなるからまちぢからで代替するということなのか？
まちぢから協議会に求めること	・コミュニケーションを担う団体が求められているのでは？ ・専門機関の方に正しくつなぐ役割 ・自治会の力を超えるような解決力があるならわかる（そういう企画力、アイデアのある人が必要） ・新たな環境、取り組みとして動いてほしい ・川崎の活動のようなことができれば良い

グループ 3	グループ意見
まちぢからに求めること	・他人との関わりがほしい ・目的がわかるように ・地域活動が形だけで終わらないようにすることが大切
まちぢから協議会で必要なこと	・楽しめることを探す ・調べたくなるようなきっかけ ・近隣を巻き込むには子ども関連がやりやすい ・自分自身が楽しむ、関心を抱くことが大切 ・地域の第一印象が大切 ・地域の特色を自分たちで理解する必要がある
交流のきっかけになるもの、効果	・海があるおかげで散歩ができ、こうしたことで交流が生まれる ・海がつながりのひとつになっている ・モチベーションがあがるようなものが必要 ・貢献したい気持ちが大切 ・人とのつながりが重要
地域課題	・茅ヶ崎を自然の中で守っていききたい ・新しい人たちも受け入れていかないといけない ・活性化が必要 ・高齢者が多い ・道路幅・道幅が狭いと、お店等に寄りにくくなるので、日曜日は歩行者天国にする。道路の有効活用 ・マンションだと人間関係がうすくなる ・住む地域によって変わる人と人との関係の濃さ ・参加したくなるような環境づくり

グループ 4	グループ意見
地域参加のきっかけがほしい、参加しづらい	・ 課題：どんな人が住んでいるか分からない →参加のきっかけをつくってほしい ・ 空き家の活用について話し合いするのが良い →集会所のない場、話し合いの場にする ・ 協力しなきゃいけないが、でもどうすればいいのか？ ・ 自分から「何かしましょうか」とは言いづらい →人から言ってもらえるとやりやすい ・ 地域と関わりないと参加しない ・ 「行政＝自治会」のつながりの強化（従来から内部状況の把握が弱いから）
地域参加する人を増やす、きっかけづくり	・ 地域に対しての知識がない →参加しやすい時間/内容のもので若者を呼ぶ ・ 夏は知名度 UP に大切な時期（外部者を呼び込める） ・ イベントに来てもらうために、告知の徹底 ・ 若松町の高齢化、空き家が多く、外での会話が少ない ・ 話せる環境＋組織づくりがあると良い ・ 近くにいる人とのあいさつで、幸せになるつき合いが可能 ・ 新しく来た人にも活躍できる場をつくるのが大切 →地縁が強くて中に入りづらい Ex) 人に役割を頼むと、“期待されてる？”という感覚になってもらえるので、ここからコミュニケーションが始まる ・ 日々、知らない人へ声かけ（長く住んでいる人が） ・ 新しいイベントがあると、コミュニティが広がる ・ どんな情報を知っておいて欲しいかアンケートで共有 ・ 地元の人が、外部の方に“来て良かった”と思ってもらえるように！との意識が必要 ・ 仕事場が東京であり、もっと地域交流をしておけばよかった →市民討議会がとても良いきっかけになった ・ 保土ヶ谷は、地域協定を実施している →何かあったときに助け合う
子育て支援	・ 高齢者目線→子どものことを考えていなかった ・ 子どもと日中を過ごす、子育てが大変 ・ 幼稚園/保育園に入れず、数が少ないと感じる →そのため、仕事ができない →待機児童が数百人 →ほしいところに園がない（駅周辺には多いが、必要な場所には少ない） ・ 願いや届けを出してもどうにもならない ・ 小さくてもいいので保育園を開設してほしい

高齢化対策	・自分目線で考えている→高齢者のことがわからない ・母が認知症で高齢化という状況から、予防社会が大切だと実感しており、これがコミュニティ力ではないか →介護の担い手不足＋認知症対策の団体が少ない ・介護施設と保育施設を同時につくっていくべき →見守り、世代間交流につながる ・若いうちから予防すべき →地域コミュニティにおいて、体操や料理など、楽しくやるものが必要
地域課題	・鉄砲通りは、運転には狭い →タクシー運転手は対向車として待ってくれるので、こうした親切には感謝している (鉄砲通りは、今はきれいで広い) ・防災の一環で木の伐採をしているところがあるが、素人があつかうチェーンソーは危ない

グループ 5	グループ意見
地域とのつながり	・独り身だから何かあった時に心配。つながりは、何かあった時でいい。地域循環などの仕組みを作ればいいのではないか。家の見回りなど、しつこいとかえってうっとしい。 ・地域みんなで協力すれば、清掃など町の美化にもなっていく
茅ヶ崎のウリ	・平塚みたいな七夕まつりをしてほしくない。茅ヶ崎のお祭りをもっと知って欲しい。参加者は、茅ヶ崎の人しかいない。 ・茅ヶ崎のグルメを作って町おこし（パン、お菓子）をすれば、人が集ってくる ・浜降祭は地域の人を楽しんでいる
地域で達成したいこと、目的がない	・地域で達成したいことがない。 ・目的が分からないから必要性が分からない、田舎だと思う
こんなことつながったらいい	・人を外見で判断してほしくない。また、少数派の意見を取り入れてほしい（たとえば、タトゥーを入れている人でも入れる銭湯や、タトゥーの有無で分かれて入浴する仕組みがあれば良い）。 ・茅ヶ崎のウォーキング活動は年寄りばかりなので、若い人が興味もつものと考えて、多様な年齢層が一緒にやるようにすべき ・子育て世代と年寄りのためのイベントしかない。子どもいない人のためのイベントはないのだろうか
困っていることと解決策	・市の施設は月曜休みが多いから、子どもの行き場所がない ・廃油の日があるが、使っている傾向がないので、いらないのではないか →こういう事例についてどうするか考えてみる等、話し合いの場

	の課題にしてもいいのではないか ・ゴミの分別がしっかりできていないため、新しく入ってきた人にたいしてそれを教える必要があるといった具合に、地域のルールをみんなで共有する
--	---

グループ 6(学生：オブザーバ)	グループ意見
ごみ問題への関心	・地域への愛着があれば、自発的にキレイにしようとするのではないかな？ →どうすれば愛着を ・ごみ問題なりダメなものはダメと言ってくれる人が大事 ・ごみの分別があいまい ・ごみ袋は、地域によっては有料 ・学生だと袋を買わないで、適当にごみを捨ててしまっている人がいる ・ごみ出しのルールは厳しすぎると逆効果
近所に頼る人がいない	・一人暮らしでとなりの人を知らない問題 ・体調をくずした時とか、頼る人がいない ・アパート・マンション暮らしだと、年に1回ぐらい顔を合わせる機会があれば良いとった状況 ・若い世代は、特に子どもがいなくなった時とかに、近所に頼れるような関係必要となる →こうした関係を作ることができる機会があった方が良い ・女子一人暮らしだと、まわりに知られると逆にあぶない？
自治会・地域コミュニティへの入りづらさ	・学生は、4年間限定の生活だから、自治会に入りづらい →茅ヶ崎は特に地元の人には地元愛強すぎて余計に入りづらい ・若い世代の参加が少ない →「情報をどこから得ればいいのかわからない」というところが関係している ・となりの人とは顔合わせる程度だから、頼りづらい ・外から来た人は自治会に入りづらい
公園の利用に関する問題	・公園でさわぐと、さらにルールが厳しくなるため、ますます公園に人が近づかなくなる →人のモラルが求められている ・少子化問題 →子どもが公園で遊んでいない →公園の利用が減った＝もったいない ・公園のルールが厳しすぎる →基本的に全部禁止で、一つ一つ許可をとる方式なので、さらに利用者が減ってしまう

	・公園は、公共のものだからという理由で、どんな人がどんな目的で使ってもいいのかというのは疑問
近所の人との交流	・ある程度キョリをおいた関係づくり →近すぎるとちょっと… ・自治会に入ったら、意見とかを言えるため、もっと楽しく暮らせるのでは？ ・大家さんとの交流 →いざという時に助けてくれる →住民に必要な声がけをしてくれる

（４）参加学生の感想と意見

文教大学国際学部生

市民討議会は、情報や意見を市民間で交換できる場である。また、市民が地域にいつそうの関心を持ったり、地域について考えたりするきっかけになっており、市民の当事者意識が芽生えるきっかけになっている。茅ヶ崎市にとって、重要な機会であると感じられた。

しかし、討議会には課題が存在することもわかった。それらは、若者の参加をどのように増やすか、情報を正確に伝えあうにはどうしたらいいか、ディスカッション内容をわかりやすく設定することができるか、参加者にできるだけ均等に発言してもらう方法はあるか、将来の成果や結果にたいして参加者にどのように実感をもってもらえるか等である。

討議会は茅ヶ崎市民にも、茅ヶ崎市にも重要な場であるからこそ、討議会で話し合われたことが実際に施策として反映されることが望ましいと思われる。そうであれば、市民は今以上に「意見を述べる必要性」を感じるであろうし、市民討議会の認知度も向上するだろう。また、こうした展開が、市民のまちづくり意識のさらなる向上につながるのではないだろうか。それゆえ、結果を参加者に報告し、参加の機会を繰り返し提供していくことで、市民参加という考え方が市内に根付いていく可能性があるという印象を受けた。

以下、学生の印象や感想を列举する。

（１）市民討議会の重要性

- ・実際の市民の声をまとめることができる場である
- ・討議テーマの案件（今回はまちぢから協議会の活動）をより良いもの、充実した内容に高めることができると思われる
- ・幅広い年齢層、職業柄の市民同士の意見交換ができる貴重な場となり、今後の地域発展につながる
- ・地域内での情報交換、市民同士の情報交換の場、交流の場になる
- ・知らなかった情報や自分では調べない情報を市民討議会の中で知ることができる
- ・様々な意見を持つ人々が１つのテーマで議論を交わすことにより、他者への理解や共感を生みだすとともに、「他者を知る／理解する」という実感を得る機会となる
- ・専門家を招き、説明が行われるため、行政や市民に新たなノウハウや専門知識を伝えることができるなど、勉強会の役割を果たしている
- ・市内の生活課題を市民同士で共有し解決策を探ることで、市民は自分の暮らすまちに対する関心が高まる
- ・市民という自覚、市民意識の醸成に役立つ
- ・一部の参加者にとって、自身に直接関係がないと思われるテーマであっても、議論を経ることで何らかの形で自分との関係を見出すことができ、市民に当事者意識が芽生える手助けとなっている
- ・市民が地域問題に関心を持つ機会になっている
- ・茅ヶ崎における市民参加のきっかけ（気軽に参加してもらうための機会）作りになっている
- ・色々な考え方や率直な意見に触れ、刺激を受けることができる
- ・地域への考え方の変化が期待できる
- ・行政側は市民の生の声を聞くことができ、市民の視点から施策へ新たな価値観を吹き込むことができる

- ・行政と市民の意見交換が行われ、それを直接聞くことができる貴重な場である
- ・市民の意見や主張を直に聞くことができるため、市民と行政との間のすれ違いを防ぐことができるのではないか
- ・「知る」ことで参加者の意識が地域に向くので、このような変化がおこるだけでも地域のためになっていると感じる
- ・市民が望む、住みやすい地域づくりを進め、実現へ近づくことができるのではないか
- ・市民の市政への理解を促す（市民と行政の新たな関係性の構築）

（２）課題と限界

- ・年齢層により参加率に差がある
- ・若い人の参加が少ないと感じた
- ・様々な年代の方々が集まる場だが、若い世代が少なく、意見が偏ってしまうのではないかと思う部分がある
- ・人口構成の関係もあるだろうが、どうしても若い人が少ないと感じた（場合によっては中高生の参加も可能にして、もっと幅広い意見を集めても良いかもしれない）
- ・週末開催では、自営業の人は集まりにくい
- ・徐々に認知されてきてはいるものの、いまだに市民討議会の認知度が低い
- ・同じ人が継続して参加できるような工夫も、今後は考えるべきではないか
- ・市民に、参加のメリットをより適切に表現すべき（テーマの提示だけでは不十分かもしれない）
- ・話せない人がいた場合の対応方法を考えておくべき
- ・しゃべりすぎてしまう人に対して自然に話を区切る、発言の少ない人には積極的に話を振る等、討議の進行方法も検討が必要だと考える
- ・興味を持って積極的に参加している人と興味のない人の差がある
- ・6人グループだと少し人数が多いと感じられる場合があり、全員の意見を聞くには時間的にも足りない時がある
- ・ディスカッション内容が難しいという意見が多い
- ・市が話し合ってもらいたい内容を、いかに正確に市民に伝えられるかが大きな課題
- ・議論のテーマが漠然としていると、自由に発言しやすい環境であることも相まって、論点がずれる恐れがある
- ・多様な市民参加手法との併用を進めてはどうか（討議会は住民基本台帳からの無作為抽出であるため、在住者の会となる。他市に住み茅ヶ崎で活動する人たちや在学の学生などは選ばれず、これからの茅ヶ崎市を担っていく人々の幅が狭まる可能性がある。討議会に参加する市民と茅ヶ崎市の定義する市民の質的な差にも着目すべきではないか）。
- ・テーマに興味があり参加したいと思っても、選ばれないと参加できない
- ・無作為抽出により参加者が選ばれるため、テーマにより討議会を使うかどうかを考える必要がある
- ・討議会から得られた市民意見をどのように活用するか、検討すべき（討議会による提案を施策に応用する方法を増やすべきではないか）
- ・討議後の投票にたいしては賛否両論があり、また、投票方法やその説明の仕方に工夫の余地がありそう
- ・参加の有無を問わず、市民に向けた討議会の事後報告の機会を増やすべき（討議会の中で面白い意見

が出て、その場限りで終わってしまうことがないように)

- ・市民の意見を集めた後、施策に反映する仕組みを作り、討議会による変化や目に見える成果を示すことが必要
- ・市民が考える今後の望ましい地域の在り方はそれぞれ異なるため、討議会での議論の成果を実際に地域施策に反映する方法を検討すべきではないか
- ・討議会を実施するにはそれなりの期間の準備が必要で、準備に時間がかかるため、1年間に実現できる回数が限られている
- ・予算や時間のことを踏まえると、たとえ討議会が有効であっても頻繁に開催することは難しい

(3) 市民討議会の将来性・展望

- ・集まった人同士が一緒に行動する点は重要であり、話し合い結果が施策に反映されるなどの将来性がある(そうなれば、市民からの意見も出やすくなる)
- ・討議会を何度も行うことにより認知度も高まり、住民参加という考えが茅ヶ崎市にどんどんと根付いていくのではないだろうか
- ・この市民討議会の形式が、もっと簡単に、色々な場所で利用できるようになると、さらに市民参加のチャンスが広がると思われる
- ・地域ごとの話し合いに市民討議会の仕組みを応用できる
- ・討議会で各グループが取りまとめた内容を市の広報誌にのせるなど、住民への情報公開を進めることで討議会の認知度の向上や、討議会に参加しなかった住民の当事者意識の醸成が可能なのでは?
- ・その場だけの議論にしないために、市民の声を実際にまちづくりに反映して、その結果を討議会に参加してくれた方達に報告できたら良い(そうすれば、行政への信頼が深まり、市民の人達もやる気が出ると思う)
- ・もし討議会に出た意見が実際に市で採用された時には逐一参加者にお知らせし、また、一回きりの参加ではなく可能であるならば参加者との繋がりを切らずに継続していったらいいかと思う
- ・討議会を通じて、少しでも多くの市民が地域活動に携われるようになってほしいし、このような形で市民の主体性を行政がサポートすることで、地域活動自体の数も増えるのではないか
- ・参加者が議論の中で得た問題意識やひらめきを失わせないように、アフターケアが必要だと考える
- ・一人だけでは参加しづらい人がいると思うので、無作為抽出により選出された人は数人を誘って一緒に参加ができるなどの方法を用いる(誘う人数は上限を決めておく)
- ・学生版討議会(例:茅ヶ崎市在住または在学の中学生から大学生を対象)等も開催する
- ・敷居の高そうな「討議会」という名前を、気軽に参加しやすいようなものに変える

(4) 学生が参加するメリット、学生自身のメリット

- ・学生が実施するアイスブレイク等により、様々な世代が参加する場の話し合いやすい雰囲気づくりに繋がっていると思われる
- ・大学生は世代間のクッション役になるのでは?
- ・学生は、市の意思も市民の意思も両方を理解したうえで中立な立場で参加しており、他の参加者が意見を言いやすい状況となる(言いにくい内容を発言する時など、学生にむけて話すことで心理的な負担が緩和されるなど)

- ・市にとっては、学生をリハーサル時の仮の参加者として関わってもらうことで、予行演習をすることができる（本番当日にむけた良い準備ができる）
- ・若い世代の参加があまり多くないため、学生が参加することで、たとえ「お手伝い」という形であっても意見の偏りを緩和できるのではないか
- ・学生は様々な地域出身なので、参加者の方とお話するだけでも茅ヶ崎のことをたくさん聞くことができ、他の地域との比較も可能であり、茅ヶ崎についてさらに考えることができると思う
- ・これからの未来を担う学生が、行政に興味を持つきっかけになる
- ・改めて地域に対する関心が高まり、今後の学びに活かせる
- ・普段関わりの少ない立場の人と交流できる
- ・学生ならではの型にはまらない新しい考え方を発信できる
- ・学生側としては、就職活動の際などに学生経験として話す内容を得ることができ、たいへん貴重な機会となっている

4 アンケートの結果

(1) 事前アンケート結果

(※無回答、重複回答の設問があったため、合計回答数が必ずしも一致しない)

【参加者の属性について】

設問 1, 職業		
①	農業・漁業	0
②	自営業・経営者	1
③	自由業	1
④	家事手伝い	0
⑤	公務員・団体職員	4
⑥	専門技術職	3
⑦	事務職	1
⑧	販売・サービス職	2
⑨	製造・労務職	1
⑩	パート・アルバイト	2
⑪	家事専業	2
⑫	学生	0
⑬	無職	3
⑭	その他	4

設問 2, 家族形態		
①	単身	2
②	(自身の)夫婦のみ	4
③	未婚の子どもと同居	10
④	既婚の子どもと同居	1
⑤	親世代と同居	4
⑥	三世代以上が同居	1
⑦	その他	2

設問 3, 住居形態		
①	持ち家（戸建）	16
②	借家（戸建）	1
③	集合住宅（分譲）	4
④	集合住宅（賃貸）	2
⑤	公営住宅	0
⑥	社宅	0
⑦	その他	1

設問 4, 市内での居住年数(6 については重複可)		
①	1 年未満	2
②	1 年～5 年未満	1
③	5 年～10 年未満	1
④	10 年～20 年未満	2
⑤	20 年以上	18
⑥	生まれてからずっと	6

設問 5, 茅ヶ崎での定住の意向		
①	住み続けたい	16
②	できれば住み続けたい	5
③	できれば転出したい	0
④	転出したい	0
⑤	わからない	3
⑥	その他	0

設問 6, 平日の平均在宅時間(睡眠時間を除く)		
①	2 時間未満	0
②	2～4 時間未満	7
③	4～7 時間未満	9
④	7～12 時間未満	3
⑤	12 時間以上	3
⑥	その他	2

【参加の動機について】

設問 7, 市民討議会の手紙(参加依頼)が届いて、 どのように感じましたか		
①	面白そう	13
②	良いとりくみ	5
③	新しいとりくみへの期待	8
④	選ばれてよかった	1
⑤	なぜ討議をするのか不明	1
⑥	実際に何をするのか不安	7
⑦	つまらなそう	0
⑧	とくに感想はなかった	0
⑨	その他	2

設問 8, なぜ討議会への参加を決意しましたか		
①	討議会が興味深かった	7
②	テーマが興味深かった	6
③	日程的に都合がよかった	3
④	市のために協力したかった	10
⑤	市民の役割として大切だと思った	7
⑥	新しいことにチャレンジしたかった	5
⑦	市から手紙が届き参加しなければならなかった	3
⑧	日頃から市に言いたいことがあった	2
⑨	その他	1

設問 9, 謝礼の有無と参加決意の関係について、 どのようにお考えですか		
①	必要だと思った(謝礼がなければ参加しなかった)	8
②	不要だと思った(謝礼がなくても参加した)	6
③	どちらとも言えない	6
④	その他	2

設問 10, 謝礼の金額について、どのように思いますか		
①	多いと思った	3
②	妥当だと思った	10
③	少ないと思った	3
④	その他	6

設問 11, 地域コミュニティやまちぢから協議会 についてイメージできますか (○は1つ)		
①	具体的にイメージできる	3
②	なんとなくイメージできる	15
③	イメージできない	4

設問 12, 現時点で、お住まいの地域での活動(自治会活動、PTA活動など地域のさまざまな団体が行っている地域の住民のための活動)に参加していますか (○は1つ)		
①	参加している	8
②	参加していない	14
③	その他	0

設問 12,

【1 と答えた方→それはどのような活動ですか】

- 自治会、PTA
- 愛の輪フェスティバルのお手伝い
- 茅ヶ崎西浜高校PTA副会長
- 青年団の様な活動。防災からお祭りやらオールマイティ
- マンションの管理における理事会への参加
- 自治会役員
- 自治会・町内会活動
- 自治会での催す企画にはできるだけ参加するようにしている。趣味が同じ仲間との行動

【2 と答えた方→それはなぜですか】

- 時間がない。アクセス（情報、ネットワーク e t c）がないから
- 何の活動があるかわからない。子育てが忙しく参加するきっかけも今までなかったの。
- 日常が忙しく、土、日曜日の限られた時間しか出来ない為
- 機会がないため
- 子供が小学のころまではあったが、以降ヨコのつながりが無い
- 仕事をしている
- 子どもが成人になったので最近では参加していませんが、以前は子どもが幼稚園・小学校・中学校・高校とPTA活動ならびに役員をしていました。大学は遠いので。
- 地元の学校に子供が行ってないから。各活動に入りづらい為。
- 私自身も子供も地元の学校に行かなかったため参加の機会がなかった。又かつての勤務先も市外だったためか知り合いも少なく、活動に入りづらい。
- 引っ越したばかりで何もわからないため
- 数年前まで仕事の都合で
- 妻の実家の隣りに住んでおり、近所付き合い等は知り合いが多く付き合いの長い妻の方にまかせているが、彼女も結構喜んでやってくれている。その結果活動依頼は幸いな事に私ではなく彼女に来ている様だ。

設問 13, 地域での活動に期待するものは何ですか（複数○可）		
①	子育て支援活動	7
②	児童の見守り活動	7
③	防災、防犯活動	8
④	お祭りやイベントの実施	10
⑤	一人暮らし高齢者などの見守り活動	10
⑥	生きがいづくりの活動	9
⑦	交通安全に関する活動	6
⑧	ごみや地域美化に関する活動	8
⑨	その他	5

設問 14, 市内各地域で立ち上げられている「まちから協議会」についてご存知ですか（○は1つ）		
①	知っている	2
②	聞いたことはある	3
③	知らない	17

(2) 事後アンケート結果

(※無回答、重複回答の設問があったため、合計回答数が必ずしも一致しない)

設問 1, 今回の市民討議会について感想や印象をお聞かせください		1	2	3	4	5
		そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言えなそう思わない	そう思わない
A	市民討議会はおもしろかったですか	14	10	0	0	0
B	討議の進め方はわかりやすかったですか	4	14	5	2	0
C	進め方に関する説明は十分だと思いましたか	6	10	5	2	1
D	各回の情報提供で、討議がおこないやすくなりましたか	5	13	4	2	0
E	討議1のテーマは、話しやすかったですか	11	10	2	0	1
F	討議2のテーマは、話しやすかったですか	8	9	2	3	2
G	討議3のテーマは、話しやすかったですか	5	8	6	2	2
H	討議を通して個人意見がより成熟したと感じられましたか	3	12	8	0	0
I	グループでの意見は、十分な合意により形成されましたか	7	15	2	0	0
J	投票によって得られた意見は、満足のいく内容でしたか	6	9	7	1	0
K	市民討議会は市民の声を反映させるのに有効な手法と感じましたか	11	9	3	1	0
L	討議に参加して、市民が「まちづくりの主役」という印象が強まりましたか	5	13	6	0	0

設問 2, グループごとの話し合いは、円滑に進みましたか		
①	円滑に進んだ	12
②	やや円滑に進んだ	9
③	どちらとも言えない	2
④	やや行き詰まったときがあった	1
⑤	何度も行き詰まった	0
⑥	その他	0

→どのようにすれば、より活発な討議が出来ると思いますか。下欄にお書きください。
(意見の一部を概要で掲載)

○参加したい人ができる日程の設定。地区別の話し合いに機会
○説明が長い。もっと簡単に短く話していただけると、時間が長くなることもなかったのではないかと思います。時間がのびたので、討議（特に1回目）の時間も少なくなったのが残念でした。また、情報提供も同じく簡単に話していただけると、頭に入りますが、3回も討議すると疲れてきますので、3回目が少し集中できませんでした。
○時間をもっとかけて話し合いたかった
○発言者を指名するより自由に発言できるスタイルの方が、いろいろな意見が言えると思います。
○討議1～3に対する説明は少し短くしても理解できると思います。後5分短くしても良いのではないかと？逆に討議時間を5分長くした方が良いと思います。

○討議課題をもっと明確に提示（明示）すべき。明確にされてない例があったので若干ブレたものになったのがもったいなかった。
○1度で終わらず、数多くの市民の声を聞くようにしてください。従ってこの様な会は定期的に作って下さい。議論が市にどの様にされるかフィードバックがあるようにして下さい。
○もう少しわかりやすい課題がよかった
○1日だけではなく、2日間くらいに渡ってやってもよいのではないかな？
○時間管理をよりうまくすれば、より多くの意見を効率よく得られたかと思います。
○情報提供の時間が長すぎる。各10分でよい。
○子育てや高齢化などテーマをより具体的に設定すると活発でさらに具体的な意見も出るのではないかと思います。
○この場を多くするといいですね。
○テーマが大き過ぎるので総花的な話しが出来ない。例えば加入問題のところではどの年代に問題があるか等テーマとターゲットをもう少し絞り込んだ「マーケティング」手法を取り入れてはどうですか。
○出会いを多くする。
○皆さんそれぞれの立場で発言なさっていたと思います

設問 3, 討議の際、1つのテーマについて平均して何回くらいお話しされましたか		
①	10回以上	1
②	7～9回	5
③	4～6回	12
④	1～3回	5
⑤	0回	0
⑥	わからない	1

設問 4, 市民討議会ではじめて顔を合わせる他の市民との会話について、どのように感じましたか(○はいくつでも)		
①	さまざまな考え(発想)が聞ける楽しさ	19
②	さまざまな世代の意見が聞ける楽しさ	17
③	同じ茅ヶ崎市民としての共感や連帯感	14
④	はじめて会う人との会話における抵抗感	1
⑤	意見を言うのになれておらず、話しにくい感じ	1
⑥	その他	0

設問 5, 今後、同様に市民討議会の案内が届いた場合、何を条件に参加を決めますか		
①	日程	9
②	内容・テーマ	10
③	謝礼の有無と金額	2
④	案内があればぜひ参加したい	11
⑤	条件を問わず参加しない	1
⑥	その他	0

設問 6, 市民討議会に参加して、謝礼の金額について、どのように思いましたか		
①	多いと思った	3
②	妥当だと思った	11
③	少ないと思った	3
④	その他	6

設問 7, 討議をふまえて、地域コミュニティについてイメージが湧きましたか		
①	イメージできた	10
②	なんとなくイメージできた	14
③	イメージできなかった	0

設問 8, 討議をふまえて、まちぢから協議会について理解できましたか		
①	イメージできた	6
②	なんとか理解できた	13
③	理解できなかった	4

設問 8, ③と答えた方⇒それはなぜですか		
○自治会でできない解決できないことは市が責任を持って行うべきではないかと考えたため。		
○枠組み・現在ある自治会との違い、共通点・方向性がわからない。		

設問 9, 討議を踏まえ、ご自身の住んでいる地域のために何か役立つことがしたいと思いますか		
①	ぜひしたい	11
②	したいことが具体的にはないが、何かをしたいと考えている	12
③	どちらともいえない（わからない）	0
④	したくない（理由：	0

設問 10, 地域活動に参加することの意義や、参加しやすい地域についてお感じになる点を、自由にご記入をお願いします。 ○地域の人が抱える感じる課題は共通している点が多いのだなと思いました。それが地域で共有できれば参加の敷居を下げ安心して参加できると思います。 ○地域との交流ができることが大事だとあらためて思いました。皆ニコニコ仲良くすると参加しやすいと思います。きっかけ作りが大切だと思いました。 ○どんな世代も暮らしやすい町にしたいと思った。むずかしいけど！ ○地域の人と仲良くするために活動に参加した方が、自分にとっても他の人にとってもメリットになるということがあらためてわかりました。 ○市民には、まだまだ意味や意義が届いていないと思います。この様な論議を続けなければならないのではないかと思います。 ○1月に茅ヶ崎市に引越してきました。積極的に地域に参加したいと思います。 ○やらなければならない課題はあるが、やる人も高齢化しているので、課題を理解していった方がよいと思います。 ○参加した人が次のメンバーを連れてくる。連鎖の仕組。 ○参加することでコミュニケーションが取れる。参加すれば参加賞をつければ人も多少は集まるのではないかと例えば缶ジュースとか大人には缶ビールとか？ ○回覧板や市民広報のみならず、告知方法の多様化を図っていただければ、より多くの人に参加していただけて宜しいかと思います。 ○明るい地域社会を築いて行きましょう。 ○大変重要なテーマであったと思います。 ○共助・協助の必要性 ○仲間意識を持つ ○自分自身心がけてとけ込みたい
--

設問 11, 市民討議会に参加して感じたこと、市民討議会に期待することなど、自由にご記入をお願いします。

- 皆さん都合をつけて参加しているのでタイムマネジメントはしっかりしてほしいと感じました。青年会議所について知ることができたのが収穫でした。あと参加者がスーツだと雰囲気が堅いです。案内も「平服」ではなく、「普段着」「カジュアル」で良いのでは？
- 様々な年代の方と同じ茅ヶ崎に住んでいる市民として地域について話し合えていい経験になりました。
- おやつがほしい。
- もっと発言したかったのですが、テーマが難しかったので思うように意見が言えず、残念でした。でもいろんな方の考えが聞けて楽しかったです。
- 文教大学とのかかわりを案内に明記すべきだと思います。ゼミの一環・・・？と思ってしまう場面がありました。
- 茅ヶ崎市がより良くなる為、大勢の方の意見を聞いて欲しいと思います。
- リーダーいなく、進行がうまくないところがありました。その目的意識をもっと明確にして実施した方が良くと思います。学生のサポートは非常によかったです。ご苦労様です。
- テーマを改めて討議することは意味があるので、今後も続けて下さい。
- 長く住んでいる人の片寄った思考が感じられた。外国人参加が楽しそう。
- 意見を出したのだから1日も早く実現させて欲しい。縁があって知人になれたことは素晴らしいことだと思った。
- 準備お疲れ様でした。
- 様々な年令や職業の方の話しを聞く機会を得て興味深かったです。有難うございました。
- 一人一人の意見が聞いて下さる場作りを多くして欲しいです。
- 今後ともこのような討議の場を持たれることを期待します。
- 市全般と地区毎での討議会もあってもよいのでは。
- 多勢の意見が聞けたことは良かった。
- 今日討議した事の一つでも日常に生かされて、今後期待します。

5 テーマ担当課（茅ヶ崎市市民自治推進課）からのメッセージ

市民討議会でのご意見を聞いて

今回の平成27年度市民討議会の開催にあたりましては、茅ヶ崎市「市民討議会」実行委員会の皆様をはじめ、書記としてご活躍いただいた文教大学の学生の皆様、情報提供をしてくださった山梨学院大学の日高昭夫先生、そして何よりも長時間にわたり熱心に議論をしてくださった参加者の皆様に、多大なるご協力を賜わり、厚く御礼を申し上げます。

現在茅ヶ崎市では新たな地域コミュニティの取り組みを推進しています。これは、市内の地区自治会連合会の区域において自主的にまちから協議会という組織を立ち上げていただき、その活動を市が支援することで、地域課題の解決や地域の活性化を図ろうとするものです。本取り組みを進めるに当たっては、多くの皆様に地域やコミュニティの活動に目を向けていただき、地域の活動に参加することの重要性や有益性を知っていただく必要があると考えています。

そこで、今回のテーマ「地域コミュニティのさらなる活性化のために」は、参加者の皆様に地域に対する考えや、コミュニティに参加すること、誰もが関わりやすいコミュニティのあり方などについて議論をしていただき、いただいたご意見を今後の取り組みに生かしていきたいと考え、設定をさせていただきました。

いただいたご意見の中には、私たちが日頃感じていたことや、今まで考えていなかったことなど、様々な視点のものがありました。日頃感じたことについては、市民の皆様と共有できている事項として、また今まで考えていなかったことについては、市民の皆様のニーズとして、いずれも今後のための貴重なご意見とさせていただきます。

この茅ヶ崎市「市民討議会」実行委員会で開催する市民討議会の取り組みは、今回で8回目となります。茅ヶ崎市にお住いの皆様は無作為抽出でご案内を出し、趣旨にご賛同いただける皆様にご参加いただき、これまでも様々な分野の内容について議論をしていただきました。

初めてお会いする方と決められたテーマで議論をすることは、とても緊張したり、居心地の悪さを感じられたりすることがあるかと思います。しかしながら、1日の議論が終わる頃には、皆様非常に打ち解けて、和やかなうちに終了することが毎回の風景となっています。

このような話し合いの場をとおして顔の見える関係をつくったり、特定のテーマについての課題や課題解決策について議論したりすることは、今回のテーマのキーワードにもさせていただいた「地域」においても、非常に重要なものと考えています。

今回実施したような市民討議会を、皆様にとってもっと身近な地域、例えば小学校区であったり、自治会の区域であったり、そうした地域で実施できれば、皆様の生活の基盤である地域の中で新たな出会いが芽生え、今まで以上に顔見知りができ、新たな活動などにつながることもあるのではないかと期待をしているところです。将来的には、そのような市民討議会も展開できればと考えています。

最後になりますが、今回ご参加していただいた皆様の中には、日頃地域活動に関わっていらっしゃる方、お仕事等で忙しく関わる時間のない方、これまで関わるきっかけのない方など、様々なお立場の方がいらしかったかと思います。今回の市民討議会がきっかけで、地域に対する目線が今までよりもさらに積極的なものになったり、また今までよりも少しでも前向きなものになったりしていただけることを願い、お礼とさせていただきます。ありがとうございました。

茅ヶ崎市市民自治推進課地域自治担当

無作為抽出を活用した市民参加の方法の有効性について

茅ヶ崎市では、市民ニーズの多様化や社会的課題の複雑化が進展する中で、より市民ニーズに沿った行政サービスを提供するために、平成26年4月に「茅ヶ崎市市民参加条例」を施行し、市民参加のための取組を行っています。パブリックコメントや意見交換会など、年間約120件ものさまざまな市民参加の方法を実施していますが、その多くが公募型の市民参加によるもので、参加者の固定化や高齢化、偏りが課題となっています。この中で、無作為抽出（抽選）により参加者を募集する市民討議会の有効性については、「茅ヶ崎市市民討議会の検証」（以下「検証報告」という）に記したとおりです。

今回、検証報告に基づき、テーマ選定や実施のタイミング等を考慮した上で、「地域コミュニティのさらなる活性化のために」をテーマに、「茅ヶ崎市市民討議会」を開催しました。日常的に地域での活動や地域のコミュニティに関わりが少なく方や、関わりがあっても意見を提出しようとは考えていない方など、様々な方にご参加いただきました。無作為抽出によって選び出された、茅ヶ崎市の人口構成に近い「ミニ茅ヶ崎」の参加者による討議により、公募型の市民参加手法では拾いきれない、多様な市民の声を集めることに繋がり、改めてその有効性を確認することが出来ました。

さらに、終了後のアンケートにおいて、「おもしろかった」「どちらかというとおもしろかった」と回答いただいた方が24名中24名であったとともに、「案内があればまた参加したい」と回答いただいた方が24名中11名であったことから、参加者に一定の満足感や達成感が生じていることは、市民討議会特有のメリットとして考え得る要素です。適切な情報提供を受けることによる市政に関する知識の獲得や、討議を経ることによる各個人の意見の深化等を通じ、市民参加に対する意欲（ある種の自己肯定感ともいえるでしょうか）がもたらされることは、継続的な市民参加への可能性を含んでいると考えられます。

こういった有効性を鑑み、平成28年度に実施する「茅ヶ崎市市民参加条例」の検証において、無作為抽出方式の市民参加手法の有効性を検討します。市民3000名を対象としたアンケートにおいては、無作為抽出による市民参加手法について説明をした上で、「有効な手段であると思うか」「どのようなテーマが有効であると思うか」等の項目で、調査を行います。調査の結果を踏まえ、無作為抽出を活用した市民参加の方法について、市民参加条例への位置づけを含め、適切な措置を検討し、講じてまいります。

なお、市民参加において、無作為抽出方式が万能であるとは限りません。より多様な市民の声を政策に反映するためには、現行で多く実施されている公募型の市民参加と、市民討議会を始めとする無作為抽出等による市民参加の方法を複合的に実施することも効果的であると考えます。市民ニーズとのかい離が生じないように、より良い方法を検討し、効果的な方法で市民ニーズを捉えていくことが、市民の求める市政運営を行うことへつながっていくと考えます。いずれの場合においても、参加をしてくださる市民の皆さまがあつての市民参加の取組であり、今回の市民討議会にご参加いただいた皆様に心より感謝申し上げますとともに、今回の討議会をきっかけに、今後ともご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

茅ヶ崎市市民自治推進課協働推進担当

6 講評

平成 27 年度市民討議会

「地域コミュニティのさらなる活性化のために」を振り返って

日本全国で地域コミュニティの再生や活性化が繰り返し唱えられるわりには、それがうまくいった事例とか成功の秘訣とかいったことは存外聞かない気がします。それは、「地域コミュニティ」なるものが、あまりにも多様で、すべてに当てはまる共通項を見つけるのが難しいという事情もあるのだと思います。たとえば、仮に「コミュニティ」の単位を自治会の範囲に限定したとしても、全国津々浦々、約 30 万もの自治会町内会があり、極端に言えば、30 万通りのコミュニティがあることになります。

では、コミュニティの再生なり活性化には何ら定石はないのかといえ、そうでもないようです。ざっくりとした議論をすれば、4 つくらいの手掛かりはあるように思います。

第 1 に、そもそもなぜ地域活動が必要なのか、という視点です。地域活動というのは、地域住民が共通に必要なと感じている生活上の問題や課題を解決するための協力活動です。難しくいえば、地域における「共同性」のニーズが何かを共有するところが出発点です。

第 2 に、地域の問題を「自分事」としてみる当事者性の視点です。「そんな関係ない！」とみんなが思えば、勝手にやれば！となってしまう、「共同性」は成立しません。多くの自治会が抱えている諸問題の根源には、いわば「役員当事者主義」ともいうべき問題が横たわっているように思われます。「役員」以外の、多種多様な年齢、性別、職業、趣味、経験をもつ住民が、自分は「当事者」ではないと思っている現状があると思います。

第 3 に、では、何が「共同性」のニーズか、どうすれば「当事者性」が発揮できるのか、といった一番肝心なことはどのようにすれば成立しうるのでしょうか。そこで「学び」の出番です。あるいは「気づき」といってもよいかもしれません。「学び」の方法はたくさんありますが、この場合最も有効な「学び」の方法は、多種多様な人々の中でのコミュニケーションではないでしょうか。自分は必ずしも「当事者」とは思っていない多種多様な人々による市民討議会が大きな効果を発揮するのは、この「学び」の局面でしょう。もちろん、そのためには相互の議論を促し活発化するためのファシリテーションの機能は不可欠ですが、社会関係が希薄化する現代社会においては、そうした「学び」の場を設けるということ自体にも大きな価値があると思います。

最後に、持続性の視点です。人は熱しやすく冷めやすいものです。何ごととも持続的に行うためには、それが当たり前（ルーチン）となるような仕組みや制度を考案し運用することが不可欠です。茅ヶ崎市における新しい地域活動の枠組みとしての「まちぢから協議会」というのは、そうした制度設計のアイディアの一つでしょう。

今回、茅ヶ崎市の市民討議会に「情報提供者」として関わりを持たせていただくことができ、また最初から最後まで同じ会場で同じ空気を感じさせていただく機会をえたことに感謝と御礼を申し上げます。

最初の驚きは、「地域コミュニティの活性化」という若者から一番敬遠されそうなテーマにもかかわらず、学生も含めて若い世代の参加者が多かったことでした。これは意外であると同時に、実際にグループ討議やプレゼンを聞いてみると、若い世代の参加者からも積極的な発言や提言があり、今後の「地域コミュニティ」の新しいあり方に希望が持てた気がしました。その意味で、市民討議会は、上に述べたような「学び」の場として非常に大きな成果が得られたように感じました。

しかし同時に、問題解決に向けた「持続性」の担保としての制度設計のあり方については、単発的な

市民討議会だけでは限界があるのではとも感じました。地域ごとにきめ細かく地区別市民討議会のようなものを開き、役員や関係者の枠を超えて、「当事者」とは思っていない多種多様な市民層を巻き込んだ「共同性」の議論を積み重ねることこそが、今後の課題ではないかと思います。

終わりに、実行委員会としてご尽力された、文教大学の先生方、学生のみなさん、青年会議所の皆様に御礼を申し上げますと同時に、茅ヶ崎市長をはじめ市の職員の皆様に対して、一層の創意工夫により茅ヶ崎方式の市民討議会がますます進化を遂げますようご期待申し上げて、講評に代えさせていただきます。

山梨学院大学 日高昭夫

7 茅ヶ崎市「市民討議会」実行委員会の動き

- (1) 茅ヶ崎市「市民討議会」開催に関する協定の締結（4月1日）
- (2) 平成27年度第1回茅ヶ崎市「市民討議会」実行委員会（9月1日）
市民討議会テーマの検討、実施に向けた実行委員会等スケジュールについての意見交換
- (3) 第2回茅ヶ崎市「市民討議会」実行委員会（10月5日）
討議テーマに沿った個別討議のテーマの検討、事前・事後アンケート内容の検討。
- (4) 第3回茅ヶ崎市「市民討議会」実行委員会（10月20日）
討議テーマに沿った個別討議のテーマの検討、当日のスケジュールの検討。
- (5) 第4回茅ヶ崎市「市民討議会」実行委員会（11月17日）
討議テーマの最終確認、当日のスケジュールの最終確認、必要物品等の確認。
- (6) 模擬「市民討議会」実施（11月17日）
- (7) 市民討議会事前アンケートの実施（11月24日）
- (8) 市民討議会「地域コミュニティのさらなる活性化のために」開催（12月6日）
- (9) 第5回茅ヶ崎市「市民討議会」実行委員会（2月5日）
市民討議会の振り返り、事前・事後アンケート結果の共有、報告書作成スケジュールの確認

あとがき

市民参画の手法として、茅ヶ崎市をはじめとして全国各地で開催されている市民討議会。中でも茅ヶ崎市における、行政、公益社団法人茅ヶ崎青年会議所（茅ヶ崎 J C）、文教大学と 3 者協働で実行委員会を組織する運営方法は、先進的な取り組みとして全国でも注目されています。

2008 年から茅ヶ崎でも始まったこの取り組みは、毎年ブラッシュアップを重ね、市民の声を行政の施策に効果的に生かす仕組みとなることを目指して徐々に成長してきました。2015 年度はこの仕組みを検証し、市民討議会の成り立ちに立ち戻り、この茅ヶ崎市で、どのように市民の声をより効果的に拾い上げ、より効果的なまちづくりに生かすのか、という視点で『茅ヶ崎市市民討議会の検証』と題したレポートをまとめあげ、2015 年 5 月に発刊しました。

このレポートでは、過去 8 回に渡って開催された茅ヶ崎市市民討議会の代表的な課題として「準備期間」「開催予算」「政策への反映」「継続的な市民参加の推進」「他の市民参加手法」の 5 点を取り上げました。そして、これらの課題を踏まえた上で、今後の茅ヶ崎市市民討議会の開催においては、「テーマ選定」「企画・運営」「運営費」「謝礼」「討議の成果」「討議結果の反映」「市民参加手法としての市民討議会」という 7 項目を重要項目として企画・運営を行うことになりました。

本年度は、「地域コミュニティのさらなる活性化のために」というテーマ設定をおこない、まちぢから協議会（仮称）の仕組みについて市民討議会を実施しました。これまでの自治会の機能とは異なり、地域課題に対して地域住民が自主的に協議する場。それがまちぢから協議会（仮称）です。この仕組みを支えるために「茅ヶ崎市地域コミュニティの認定等に関する条例」が 2016 年 4 月より施行されることになりました。この仕組みが浸透し、機能するためにどのような取り組みを行うべきかを討論するのが、今回のテーマでした。

準備期間としては 3 ヶ月程度でしたが、実際には上記の重要検討項目のうち「テーマ選定」と、それに伴う一つ一つの討議テーマ（小テーマ）の設定にかなり苦労しました。地域コミュニティという言葉が持つ曖昧さであったり、自治会が果たしている役割が市民に中々イメージし辛かったり、それゆえまちぢから協議会（仮称）と自治会の違いが分かりづらく、討議にならないのではないかという懸念を払拭するのが難しかったです。しかしながら、事前に開催する模擬討議会（リハーサルのこと）において、その懸念が活発な意見出しにつながり、素朴な疑問点を率直にぶつけられる大学生ならではの強みも相まって、結果として、本番当日は有意義な討議をしていただくことができました。

ここで改めて市民討議会を 3 者で開催する価値というものを、検証内容とは別の角度で感じます。行政の考える施策が、時として市民には分かり辛いものとなり、市民に受け入れられるのに苦戦するケースもあります。しかし、このような市民による討議の場にかけるに当たって、市民討議会実行委員会というフィルターで、メンバーのほとんどが地域で事業を行う主体である茅ヶ崎 J C や、素朴な発想で前向きに議論してくれる大学生の存在、全体として論理破綻せぬように軌道修正してくれる文教大学の山田教授の存在が、テーマ設定を地に足の着いた確かなものへとブラッシュアップさせ、市民に問う課題として相応しいものとなることを感じます。そして、高い志と意欲に満ちた行政職員の前向きな姿勢、それを可能とする高い能力の皆さまに、改めて敬意を表します。

今後も市民討議会が市民参加手法として利用しやすいかたちなるべく、三者で協力して参りたいと思います。最後になりますが、当日ご参加くださいました市民の皆さまに心からの御礼を申し上げますとともに、市民の皆さまの今後の益々のご協力をお願いさせていただきたいと思います。誠にありがとうございました。

公益社団法人茅ヶ崎青年会議所
北川 哲也

平成 2 7 年度茅ヶ崎市市民討議会報告書
平成 2 8 年 3 月発行

編集 茅ヶ崎市「市民討議会」実行委員会
発行 茅ヶ崎市「市民討議会」実行委員会
茅ヶ崎市新栄町 1 3 番 2 9 号
公益社団法人茅ヶ崎青年会議所内